

平成28年度事業報告書

1. 事業の状況

当法人は、愛知県内の大学で独創的な研究を行う者に対し助成を行い、もって我が国の学術の振興に寄与することを目的とし、この目的を達成するために研究者への助成金の支出ならびに研究者の海外派遣を事業として行うものである。

平成28年度（第33回）の助成事業については、平成28年4月に愛知県内の各大学に助成者の推薦を依頼した。

その後、平成28年6月30日に助成候補者の推薦を締切り、各専門分野ごとに選考委員による審査を9月初旬に終え、9月20日開催の理事会における最終決議を経て、11月21日に当財団事務所にて助成者53名の内34名を招いて助成金総額3,350万円を贈呈した。

部門ごとの助成金受領者と助成金額は次のとおりである。

第33回(平成28年度)助成者一覧表

1・研究助成

部門	No	研究者	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等
工学	1	ムカイ ヤスヒト	名古屋大学 大学院工学研究科 化学・生物工学専攻 准教授	化学工学 固液分離工学	高表面積ブリーツ濾材とセルフクリーニング機構を配備した大流量濾過システムの開発および排水処理への応用	高表面積ブリーツ濾材を配備し、ジェット噴射による濾材の洗浄機構を有するダイナミック濾過システムを設計・開発する。濾過特性に及ぼす種々の操作変数の影響を実験的に明らかにするとともに、数値流体力学に基づくシミュレーションを実施して濾過機内の流動状態を解析し、これらの結果に立脚して、効率的な操作方法を探索する。以上の検討結果を総括して、最適なプロセス設計を構築し、さまざまなタイプの排水の大流量処理を目指す。
		向井 康人				
	2	タカタ ナオキ	名古屋大学 大学院工学研究科 マテリアル理工学専攻 准教授	材料組織学 材料強度学	金属間化合物を強化相とした新規耐熱アルミニウム合金の設計と組織制御	本研究では、金属間化合物Zn2Mg Laves相により強化される耐熱アルミニウム合金の設計原理構築を目指し、計算状態図により予測された α -Al相(fcc構造)と η -Zn2Mg相(C14構造)の2相域の温度変化を基に設計した新たなAl-Mg-Zn3元系合金を溶製し本合金の組織制御に資する α -Al母相からの η -Zn2Mg相の析出の速度論と結晶学的特徴を解明する。
		高田 尚記				
	3	ナガエ タクヤ	名古屋大学 減災連携研究センター 准教授	建築構造 耐震工学 地震防災 性能設計	新構造システム開発による建築物の高耐震化がテーマ。基礎構造の柔性と上部構造のエネルギー吸収能力を組み合わせることにより、大地震時建物被害の大幅軽減をめざす。	通常建物を前提とする普及型技術をめざし、基礎構造に導入可能な滑り機構用の一般建設材料について、摩擦実験を実施する。各種組み合わせの摩擦特性をモデル化する。内外装材、設備配管・機器類を含む建物全体としての被害評価の解析を実施する。上部構造の損傷抑制に加え、ストッパー機構の導入等、滑り幅抑制の手法開発にも取り組む。
		長江 拓也				
	4	イワモト ユウヒロ	名古屋工業大学 大学院工学研究科 助教	熱 流体工学	非磁性金属粒子を含有する磁気機能性流体を応用した磁場による熱伝導率制御技術および新規機能性冷媒の開発	磁場印加による高熱伝導性の非磁性金属粒子を含有する磁気機能性流体の構造異方性と、それに起因する熱伝導異方性を磁場印加型暗視野顕微鏡および磁場印加型定常パラレル法を用いて実験的に可視化・計測する。同時に、離散粒子法と格子ボルツマン法の連成解析によりその熱伝導異方性の発現メカニズムを明らかにすることで、磁場により流体の熱伝導率を任意に制御可能な新規機能性冷媒とその制御技術の確立を目指す。
		岩本 悠宏				
	5	マエダ ヨシヒロ	名古屋工業大学 工学部 電気・機械工学科 准教授	制御工学	精密位置決め制御のための転がり摩擦を考慮した共振モードパラメータ同定法に関する研究	転がり案内・軸受機構を有するテーブル位置決め装置を対象に、転がり摩擦モデルを用いたシミュレーション解析によって、案内・軸受部で発生する非線形な転がり摩擦によるプラント周波数特性への影響とメカニズムを明らかにする。また、転がり摩擦モデルに基づいて線形プラント周波数特性を推定し、高精度な共振モードパラメータ同定法を確立する。
		前田 佳弘				
6	モトニ スグル	愛知工業大学 工学部 電気学科 講師	非接触給電	海中磁界結合型ワイヤレス給電システムの給電・受電コイル間での水中生物への電磁界ばく露試験とその評価	海底資源探査の進展を目的として、海中において電力ケーブルを用いることなく、非接触で海底探査機に電力を送るシステムを構築する。しかし、磁気エネルギーを介して電力を送るため水中生物に対する影響を懸念する声がある。システムの有用性を実証し、海中ワイヤレス給電の早期実現化を目指すため、国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が定めるガイドラインを基に水中生物への電磁界ばく露評価を行う。	
	元谷 卓					
7	サワノ ヒロアキ	愛知工業大学 情報科学部 情報科学科 准教授	情報工学	動作パターン型統計的解析法に基づく映像学習システムの開発	スポーツや医療行為などの映像に対して、手動で動作を分類し分類パターンに基づいて画像処理を行い、映像学習システムに応用する。この研究では、手動により入力した情報から映像特徴を統計的に解析するアプローチを取る。複数の映像における、同一動作、類似した動作を対象にし、教師データとするために傾向の統計をとり、解析結果に基づいて、新規で入力された映像を解析する、解析結果を利用して、習熟度に応じた映像学習システムの開発を行う。	
	澤野 弘明					
8	イトイ ヒロユキ	愛知工業大学 工学部応用化学科 准教授	電気化学 有機-無機複合材料 ナノマテリアル材料 触媒	異なる酸化還元電位を有する化合物を活性炭に吸着させた電極材料を組み合わせた非対称レドックスキャパシタの開発	本研究では酸化還元電位の高い化合物を活性炭に吸着させて作製した電極をカソードとし、同様に酸化還元電位の低い化合物を活性炭に吸着させたアノードを作製し、異なる正極と負極材料から構成される非対称レドックスキャパシタを開発する。酸化還元反応を示す有機化合物や有機金属錯体には理論容量が高く極めて素早い酸化還元反応を示すものがあり、これらの反応を利用することで急速充放電と高エネルギー密度を両立させた高性能電極材料の実用化を目指す。	
	糸井 弘行					
9	ニシムラ ナオヤ	名城大学 理工学部 交通機械工学科 准教授	材料力学 衝撃工学	超音波法による路面状態の推定	本研究では、超音波を用いて、路面の材質や種類(アスファルト、コンクリート、金属、芝生、砂利等)、および表面状態(乾燥、湿潤、氷結、雪等)を判別することを目的とする。路面状態が推定できれば、のりものと路面の接地面摩擦状況の推定につながり、自転車や自動車等の制動性能向上のためにも、評価方法の確立、評価システムの構築を目指す。	
	西村 尚哉					
10	フルカワ ヒロユキ	名城大学 理工学部 機械工学科 准教授	流体工学	超電導フライホイール蓄電システムにおける回転円盤まわりの時間発展的流体挙動の解明と制御	フライホイール蓄電システムは電力を使って円盤型のフライホイールを回転させることにより、電気エネルギーを運動エネルギーに変換して貯蔵する仕組みである。円盤を高速で回転させるので、空気抵抗の軽減および振動が課題である。そこで本研究では、回転円盤周りの時間発展的流体挙動を解析し、回転数および円盤表面形状の影響が空気抵抗、振動に及ぼす影響を詳細に調べ、エネルギーロスの軽減を目的とする。	
	古川 裕之					

部門	No	研究者	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等
工学	11	カワムラ ゴウ	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 電気・電子情報工学系 助教	無機物質工学	金—チタニア系のプラズモニク光触媒の反応メカニズム解明および超 高効率光触媒の合成	金—チタニア系プラズモニク光触媒における、電荷の振舞いと触媒反応のメカニズム解明を行い、反応の高効率化を実現することで、 太陽光エネルギーを有効に利用できる新規環境浄化材料の開発を目指す。特に触媒反応メカニズムの解明には、走査型透過電子顕微鏡と 元素マッピング解析を駆使して、酸化還元反応サイトを可視化するという独創的な手法で取り組む。
		河村 剛				
	12	チャンタマート ソーダー Chanthamath Soda	豊橋技術科学大学 社会連携推進センター 特任助教	有機合成化学 不斉合成	高活性な金属触媒を用いる不活性なC-H結合への高立体選択的官能 基化反応:幅広い薬理活性を持つγ-ラクタム類の立体選択的合成法の 開発	本研究が独自に開発したフェニルオキシラン系ルテニウム錯体を触媒として用い、ジアゾアセトアミド類の分子内不斉CH挿入反応を 検討する。高活性な金属触媒によって化学的に安定で強いC—H結合を活性化し、高立体選択的に官能基化いわゆるC-H挿入反応が 進行する方法を確立する。相当する生成物であるγ-ラクタム類の立体選択的合成法の実現化を目指す。
13	カミヤ ユキヒロ	愛知県立大学 情報科学部 情報科学科 准教授	情報通信工学	音波通信によって害獣撃退を同時に行う農業用センサーネットワークの 開発と検証実験	本研究は農業に応用するセンサーネットワークを対象とし、電波ではなく音波によってデータ伝送を行うシステムの開発を行う。音波の使用 により電波法の規制を受けず、また部品が低廉であるため低価格化が期待できる。同時に、音波によって、近年大きな問題となっている 害獣撃退を同時に行う効果を明らかにする。	
	神谷 幸宏					
医学	14	オカザキ ヤスマサ	名古屋大学 大学院医学系研究科 生体反応病理学 講師	実験病理学	Protoporphyrin IXを用いた活性酸素による新規がん治療法への基礎研 究	Protoporphyrin IX(PP IX)は鉄を組込みヘムとなり、多くの酵素やヘモグロビンの構成成分となる。PPIXは光線照射により活性酸素を生じ、 がん細胞を傷害する。そのため、PP IXの基質となる5aminolevulinic acid(5-ALA)を用いた光線力学療法が施行されているが、そのがん細胞 傷害機構には未解明な点が多い。本申請書では、PP IXと鉄代謝に関する研究と、新規がん治療法として期待されている非平衡大気圧 プラズマを合わせた研究計画を提案する。
		岡崎 泰昌				
	15	ミヤサカ ユウキ	名古屋大学 大学院医学系研究科 助教	実験動物学	ゲノム編集技術を用いた新規マウス致死遺伝子の同定とその機能解析	マウスA/J-7ASM系統の第7番染色体中央部には未同定の致死遺伝子が存在し、ホモ個体は肺の形態学的異常がないにもかかわらず 自発呼吸ができず出生直後に死亡する。 我々は致死現象の有力な原因として第7番染色体中央部に存在するDchs1遺伝子の発現がホモ個体で欠失することを明らかにしている。 そこで本研究では、近年開発されたCRISPR/Cas9システムを用いたゲノム編集技術によりDchs1遺伝子欠損マウスを複製し、この遺伝子の 欠損が致死を引き起こす原因であることを実証すると同時に、Dchs1遺伝子欠損によりマウスが呼吸不全に至るメカニズムを探ることを目的 とする。さらに、哺乳動物での機能が十分に解析されていないDchs1遺伝子の機能を明らかにすることは、自発呼吸の制御機構の解明に つながることが期待できる。
		宮坂 勇輝				
	16	シマダ ミドリ	名古屋市立大学 大学院医学研究科 細胞生化学講座 講師	細胞生物学	乳癌の新たな分子標的薬創出を目指したChk1の機能解明	がん細胞特異的なChk1の機能解明を通して、乳癌で高活性化されているChk1の downstream 因子を標的とした、新たな分子標的薬の創出を目指す。
島田 緑						
17	ミツイ レツ	名古屋市立大学 大学院医学研究科 細胞生理学分野 助教	生理学 組織学	加齢による膀胱粘膜血管の機能異常	膀胱粘膜微小循環の異常による粘膜障害は、高齢者に多い過活動膀胱の一因と考えられている。 本研究では、経時的血管壁追跡ビデオシステムを用い、加齢(2年間飼育した高齢マウスを使用)による膀胱微小血管の交感神経性制御の異常 について検討する。血液の巡りを悪化させると考えられる過剰な交感神経性血管収縮が、加齢による内皮β受容体-NO経路の破綻に関連して いるとの仮説を検証する。	
	三井 烈					
18	ヤマザキ タツヤ	愛知医科大学 医学部 感染・免疫学講座 助教	感染免疫学	中和抗体遺伝子発現プラスミドを用いた新規受動免疫法による感染症 治療	抗体医薬は高いコストや繰り返し投与による負担などの問題から、感染症分野ではあまり応用されていない。それらの問題点を解決するために 申請者は、タンパク抗体ではなく中和IgG抗体発現遺伝子を投与する新たな受動免疫法を検討し、インフルエンザを予防できることを示した。 (13-1)さらに先行研究で、中和抗体遺伝子を感染1日後に投与することでインフルエンザの治療効果があることを確認している(11-1)。しかし、 感染2日以降ではその治療効果は著しく低下していた。 そこで本研究では、IgG抗体遺伝子を、オプソニン効果の高いIgM抗体や粘膜防御抗体であるIgA抗体などに組み換えることで、治療効果が上昇 するか検討する。また、別の感染症でも治療効果があるかを評価するために、マラリア感染に対しても治療できるか検討する。	
	山崎 達也					
19	コマツ コウジ	愛知医科大学 医学部 生理学講座 助教	生殖生理学	卵巣組織動態のライブイメージング解析による血清の原始卵胞発育誘 導促進効果に関する研究	原始卵胞は卵巣内で最も未成熟な卵母細胞を内包しており、通常は休眠状態で発育が停止している。性周期毎に一定数の原始卵胞の休眠 状態が解除され発育が開始するが、その制御機構は不明である。 本研究では申請者が構築した卵巣組織培養法とライブイメージング解析によって、血液と原始卵胞の相互作用がこの制御に重要な役割を 果たしている事を証明し、血清による原始卵胞発育誘導促進効果に応用した新しい生殖医療技術の創出に繋げていく事を目標としている。	
	小松 紘司					

部門	No	研究者	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等
法学・経済・経営	20	キゴシ ヨシノリ	名古屋大学 大学院経済学研究科 准教授	アジア経済史	アジアにおける貿易統計の成立と展開	アジアで貿易統計の制度が導入され確立する過程について、国内外の一次史料で解明し、アジアでの近代統計の成立過程の世界史的意義について考察する。
		木越 義則				
	21	スギタ ショウヘイ	名古屋大学 大学院法学研究科 特任講師	法と開発学	法と開発学における法学教育の目的についての考察	法整備支援の一環として行われる法学教育は、被援助国(新興国)が経済的に豊かになるための「開発」という目的でなされるべきなのか、「法の支配」を広めるという普遍的とされる価値の普及を目的となされるべきか、いささか未整理な状態にある。そこで、本研究では、法整備支援の一環として行われる法学教育がどのような目的でなされるべきであるかを法と開発学の見地から明らかにすることを目的とする
		杉田 昌平				
	22	マスダ ジュンヤ	中京大学 経済学部 准教授	統計学	「ブラック企業」と俗に呼ばれる雇用条件が非常に厳しい企業が経済の統計データを利用してどのような条件下で発生するかどうかを検証する。	「ブラック企業」と俗に呼ばれる企業の実態を解明して、労働者に対して過大な労働を押しつける企業の発生を抑制する政策手段を提示する。特に「ブラック企業」が発生する要因が日本の「雇用慣行」にあるのか、グローバル化等の外部環境にあるのか、高齢化等の労働者の取り巻く環境にあるのかを明らかにして、その対策を提示する。
	23	ツヅキ エイジ	南山大学 経済学部 経済学科 准教授	マクロ経済学	財政、金融政策における時間的な遅れ(政策ラグ)の存在が、経済の安定性に対してどのような影響を与えるのかを理論的に明らかにすることを目的とする。	金融・財政政策ルールを導入した連続時間の動学的一般均衡モデルをベースとして、ここに、固定ラグと呼ばれる定式化に基づく政策ラグを導入する。この結果、モデルの動学が微分差分混合方程式系として表現されることになる。モデルより導出された微分差分混合方程式系を解析的・数値的に分析することで、政策ラグがモデルの均衡の安定性・決定性に与える影響について明らかにする。微分差分混合方程式系を用いた政策ラグの分析は、ミクロ的基礎を持ったマクロ動学モデルではこれまでほとんど行われていないため大いに発展の余地がある。
		都築 栄司				
	24	ナカジマ ヨウキ	南山大学 経営学部 准教授	日本経済史 日本経営史 (近現代)	国会図書館所蔵プランク文庫を活用した、戦後復興期日本における研究開発と技術者の歴史的研究	本研究は国立国会図書館憲政資料室所蔵のプランク文庫を活用し、戦後復興期における日本人技術者の研究開発活動の諸相を考察する。とくに日本人技術者による海外情報の収集活動に注目したい。戦後復興期は戦中期に続いて高度経済成長期の技術発展を準備した時期であり、敗戦を通じて技術者の職場環境や研究開発に対する価値観が大きく転換した時期でもある。多くの技術者が経験した当該時期の精神史を理解することは経済史や経営史において必要であり、本研究はその一端を担うことが期待される。
		中島 裕喜				
	25	イチキ タケフミ	愛知大学 経営学部 会計ファイナンス学科 准教授	経営学	取締役の機能を代替するキャリア指標に基づく「取締役会と企業業績の関係性」に関する実証研究	日本の上場企業を研究対象として、取締役の経歴を基に作成するキャリア指標に基づいて「取締役会と企業業績の関係性」を解明することを旨とする。
一木 毅文						
26	ウチダ イチヒロ	愛知大学 経済学部 教授	応用計量経済学	社会的共通資本と実体経済活動との関係について — 沖縄県を事例にして —	本研究では、社会的共通資本、(様々な自然環境要因、交通網や上下水道などの整備状況等社会的インフラストラクチャー、教育、金融、文化などを指標化した制度資本)が、ミクロ的な経済主体である家計の行動(消費、貯蓄、労働供給等)や企業の行動(新規開業、廃業等)、全要素生産性(TFP)とどのような関係にあるかについて、沖縄県を対象とした市町村および町丁目(GIS等)ベースのデータを利用して、計量経済分析を行う。	
	打田 委千弘					
27	リ シュウビツ	愛知大学 法学部 法学科 教授	会社法 金融商品取引法	コーポレート・ガバナンスに関する法規制 — 香港法と日本法を中心として —	日本型取締役会制度の形成をめぐる法制度の変遷、英米型のモニタリング・モデルを取り入れた近時の法改正及び近時の日本の会社法・金融商品取引法の改正に影響を与えているイギリス法を継受した香港の法規制を研究対象とする。家族支配型会社が上場会社において大きな比重を占めている香港におけるイギリス法継受の経験から、日本のコーポレート・ガバナンスの実効性を向上させるための示唆を得ることを目的とする。文献研究を中心に、香港の法改正に関わった行政関係者や実務家に対するインタビューを積極的に行う予定である。	
	李 秀宓					
芸術	28	ムトウ アヤネ	愛知県立芸術大学 大学院音楽研究科 博士後期課程 音楽専攻作曲分野	音楽学 作曲	平曲、幸若舞、能の曲節の内部構造に関する分析的比較研究ならびに作曲への応用	平曲や幸若舞、能を含む「語り物」と呼ばれる一群の日本伝統芸能の音楽は、基本的に「曲節」という固定的演奏パターンとの組み合わせで構成されています。曲節の種類や旋律は各芸能で異なるものの、一部の曲節は、複数の芸能間で共通の名称を持ち、かつ常に一定の特徴を持った歌詞に付せられるなど、語り物全般に普遍的なものと考えられます。本研究は、そうした曲節の内部構造の通時的変化または共時的差異を、楽譜資料に基づく平曲、幸若舞、能の分析と比較を通じて明らかにし、またその要因を美学的に考察し、現代音楽の作曲法へ還元することを目的とします。
		武藤 綺音				
	29	ホンダ ミツコ	愛知県立芸術大学 美術学部 芸術学専攻 講師	美術史学(日本美術史)	「たらしこみ」技法の基礎的研究 —近世から近代へいたる「琳派」再考—	墨・顔料のにじみを活用した「たらしこみ」技法の形成・継承・展開・評価について作品・文献から検証し、同技法を多用した「琳派」の実体を解明する
本田 光子						
30	カネマル コリエ	愛知県立芸術大学 大学院音楽研究科 博士後期課程 鍵盤楽器領域	鍵盤楽器	アルトゥール・シュナーベルのベートーヴェン解釈とその教育的意義	本研究では、アルトゥール・シュナーベルArtur Schnabel(1882-1951)が校訂したベートーヴェンのピアノソナタ作品について、その表記内容について総合的に考察することを目的としている。シュナーベルという一人の音楽家について、独自のベートーヴェン解釈に至った経緯、そしてシュナーベル版が生まれた背景を明らかにしながら、その表記内容の意味づけを行い、シュナーベル版の教育的意義について研究する。	
計	30					

2. 海外助成

部門	No	研究者	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等
工学	1	ヒロト サトル	名古屋大学 大学院工学研究科 化学生物工学専攻 助教	有機構造化学 有機合成化学	π 曲面分子の新規合成法の開発と機能性の創出	中国長沙で行われる国際会議12th IUPAC International Conference on Novel Materials and their Synthesis(NMS-X11)に出席し、新規 π 曲面分子の合成とそれを用いた機能性材料について招待講演を行うとともに、関連研究の情報収集および関連する研究者と意見交換を行う。
		廣戸 聡				
	2	タケヤ ケイ	名古屋大学 大学院工学研究科 電子情報システム専攻 助教	電子工学	非線形導波路とチェレンコフ位相整合方式を用いた高強度広帯域テラヘルツ波光源の開発	メキシコ国で2017年8月に行われる国際会議 The International Conference on Infrared, millimeter, and Terahertz Waves 2017(IRMMW—THz 2017)で研究発表を行い、テラヘルツ波光源およびテラヘルツ波技術に関する情報収集および意見交換を行う。
		竹家 啓				
	3	マハラ ユウジ	名古屋大学 大学院工学研究科 物質制御工学専攻 博士後期課程	触媒化学	ガルバニック析出法を用いたメタン燃焼反応に高活性なアルミナ担持Pd-Co触媒の調製	インドのムンバイで開催される国際会議「7th Asia-Pacific Congress on Catalysis (APCAT-7)」で、新規メタン燃焼触媒の開発に関する研究発表を行い、触媒調製や触媒の評価方法および性能に関する研究の情報収集と意見交換を行う。
		馬原 優治				
	4	ニラウラ マダン	名古屋工業大学 工学部 電気・機械工学科 准教授	半導体デバイス工学 結晶工学	有機金属気相成長法によるSi基板上の単結晶CdTe成長層を用いた、入射放射線のエネルギー識別能力を持つ高性能大面積アレイ検出器の開発	フランスで開催される国際会議でx線 γ 線画像検出器開発に関する研究成果を発表すると共に関連分野の情報収集および意見交換を行う。
		Niraula Madan				
	5	ヤマダ トオル	名古屋工業大学 工学部 電気・機械工学科 助教	ナノ マイクロ熱流体工学	散逸粒子力学(Dissipative Particle Dynamics,DPD)法に関するそのナノ・マイクロ熱流体分野への応用,特に相変化を伴う流動現象に関する研究,ならびにその信頼性向上のための基礎研究.	アメリカで開催される予定の国際会議ASME 2017 International Conference on Nanochannels, Microchannels, and Minichannels(ICNMM)で研究発表を行い、DPD法の基礎・応用に関する情報収集および意見交換を行う。 また、当学会の開催地がユタ州ソルトレイクシティに立ち寄れる範囲内であれば、申請者と旧知であるユタ大学のKay Park助教を訪問し、ナノ・マイクロ熱流体工学に関する情報交換を行う。
		山田 格				
	6	シミズ ユウト	名古屋工業大学 大学院工学研究科 情報工学専攻 博士後期課程	無線通信工学	UWB帯を用いたインプラント通信機器の高速・高信頼通信に関する研究	2017年3月20日から23日にポルトガル リスボンにおいて開催予定の「The 11th International Symposium on Medical Information and Communication Technology」にて研究発表、および関連研究の情報収集を行うため。
		清水 悠斗				
	7	ユキタ カズト	愛知工業大学 工学部 電気学科 教授	電力系統工学 電力システム工学 信号処理	再生可能エネルギーによる発電システムの電力系統への導入に関する研究であり、電力系統内に太陽光発電,風力発電,燃料電池発電などの発電システムが導入されたシステムの安定性や電力の安定供給、品質維持についてである。本研究では、さらに次世代自動車を蓄電装置として利活用について検討を実施した。	イギリスで開催される再生可能エネルギーの研究と応用で研究発表を行い、国際的な再生可能エネルギーの研究動向の調査や意見交換を行う。特に、蓄電池を搭載した次世代自動車の利活用について意見交換も行う予定である。
雪田 和人						
8	サイダ タカヒロ	名城大学 理工学部 応用化学科 助教	触媒化学 電気化学 表面科学	遷移金属酸化物を応用した固体高分子形燃料電池用の新規電極触媒の開発,および有機-無機ハイブリッド材を合成した蓄電デバイス用の電極材料として評価を行っている。また,単層カーボンナノチューブの成長機構の解明に関する研究も行っている。	アメリカのハワイ州で開催される国際会議PRIME2016にて研究発表を行い、固体高分子形燃料電池における白金を利用した白金系電極触媒における触媒活性や触媒耐久性、および白金を使用しない非白金系触媒の触媒活性について情報収集および意見交換を行ってくる。	
	オ田 隆広					
9	アブラハ ベトロス	名城大学 理工学部 機械工学科 教授	モノづくり分野	金型鋼における高効率窒化処理方法の開発	米国で開催される国際会議43rd International Conference on Metallurgical Coatings and Thin Films' (ICMCTF 2016)で研究発表を行い、プラズマ表面処理の情報収集および意見交換を行う。	
	Abraha Petros					
10	ハットリ コオスケ	中部大学 工学部 電子情報工学科 助教	音声、画像認識技術を用いたセンシング	光学と画像処理を利用した高精度三次元計測技術に関する研究	光と画像処理技術を利用した三次元計測に関して、欧州または米国で開催される国際会議またはワークショップで研究成果を発表するとともに関連する研究動向を調査することを目的とする。	
	服部 公央亮					
11	アダチ カズヒコ	中部大学 工学部 機械工学科 教授	バイオメカニクス	動的有限要素法を用いた大腿骨近位部骨折治療支援のためのバイオメカニクス解析	スペイン国で開催される国際会議「第23回欧州バイオメカニクス学会年次大会」で研究発表を行い、整形外科領域でのバイオメカニクス解析に関する研究情報収集および関連分野での意見交換を行う。	
	安達 和彦					
12	ナカガワ ヨウコ	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 環境・生命工学専攻 博士後期課程	有機化学 (有機合成化学 有機金属化学 触媒化学)	新規有機金属触媒(Ru(II)-Pheox触媒)を用いたカルベン移動反応による、ケイ素上に不斉点を持つ新規光学活性有機シラン化合物の合成法開発およびその生理活性物質合成への応用	2017年7月17日～20日の日程でOxford, United Kingdomにて開催される国際会議、25th International Symposium Synthesis in Organic Chemistryで光学活性有機シラン化合物の合成法開発およびその生理活性物質合成への応用に関する研究成果を発表し意見交換するとともに、最新の有機合成化学の研究について情報収集を行う。	
	中川 陽子					
13	ミウラ ムネノリ	愛知県立大学 情報科学研究科 情報科学専攻 博士後期課程	環境リモートセンシング (環境工学分野)	放射伝達モデルおよびその理論を応用した人工衛星による地球観測に関する研究。 特に、リモートセンシング手法にもとづく植生変数の定量に関する研究	米国で開催される国際会議 2017IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposiumで研究発表を行い、地球観測手法に関する情報収集および当該分野の研究者と意見交換を行う。(http://www.igarss2017.org/)	
	三浦 宗徳					

部門	研究者	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等
医学	カタオカ トモヤ	名古屋市立大学 大学院医学研究科 臨床薬理学 助教	薬理学 医療薬学 泌尿器科学	分子薬理学的解析技術を応用した抗がん剤による排尿機能障害発症メカニズムの解明	イタリア国フィレンツェ市で開催される国際会議 第47回国際禁制学会総会で研究発表・情報収集し、抗がん剤の副作用としての排尿機能障害発症メカニズム解明の一助とする。
	14 片岡 智哉				
法学・経済・経営	15 土井 康裕	名古屋大学 大学院経済学研究科 准教授	国際経済学 経済政策 経済統合論	東南アジア諸国連合(ASEAN)における経済統合プロセスの深化と産業構造の変化に基づく労働移動に関する研究を行う。 2015年12月に発足したASEAN経済共同体(AEC)における労働市場の統合と高度人材移動の促進が、AEC内での労働移動をどのように変化させ、または企業の人事採用にどのような影響を与えるのか現地調査を行う。	派遣の目的は、主に大きく二つに分かれる。 一つは、東南アジアの研究者や関連政府機関を訪問し、本研究に関する情報交換や研究報告を行う。現時点では、タイのチュラロンコン大学経済学部、シンガポールのシンガポール国立大学ビジネススクールへの訪問を予定している。 二つ目は、東南アジアで現地の企業を訪問し、労働市場の変化や各企業の人事戦略に関する意見聴取を行うことを計画している。
	16 川島 佑介	名古屋大学 大学院法学研究科 招へい教員	政治学 行政学	2012年ロンドン五輪を契機とした、ロンドン地方行政の多言語対応過程の解明	イギリス・ロンドンにおける政府機関(ロンドン市政府、サザーク区カウンシル、ニューナム区カウンシル)における、2012年ロンドン五輪に向けた多言語対応課程について、議員や職員への聞き取り調査および、インターネット上では公開されていない検討過程文書や議事録の収集を行う。
	17 今井 良幸	中京大学 総合政策学部 准教授	公法学 (主に憲法 地方自治法)	イギリスにおけるレファレンダムを中心とした直接民主制についての研究	イギリスにて、直接民主制の制度、具体的にはレファレンダムを中心に、近年、イギリスでは直接民主制の制度としても位置づけられつつある請願制度について、過去の文献、政府文書の調査、また関係機関でのヒアリング調査を実施する。
	18 蔡 大鵬	南山大学 経済学部 経済学科 准教授	産業組織論 国際経済学	本研究の目的は、産業組織論の分析手法を応用し、東日本大震災やリーマンショックのような突発的なネガティブショックが発生した場合に、公的資金による企業への最適な救済策、またその達成に不可欠な国際的協調枠組みのあるべき姿を提示することにある。日本経済復興の実現に理論的側面から貢献しようとするものである。	米国サンディエゴで開催される第92回WEAI(米国西部経済学会)年次大会において、突発的なネガティブショックが発生した場合の企業への救済策等に関する論文の研究発表を行い、評価・改善するためのコメントを受けると共に、関連分野の先端的研究者との研究交流も積極的に行う。
	19 池田 亮一	南山大学 ビジネス研究科 ビジネス専攻 准教授	金融経済学 ファイナンス 金融工学	消費ベースモデルを用いた利子率の期間構造に関する理論的考察と米国における実証分析	インドで開催予定の国際会議 "12th Annual Conference on Economic Growth and Development"で研究発表を行い、共著者であるYoske Igarashi氏や討論者と意見交換を行うため。
	20 毛利 元昭	愛知大学 経営学部 経営学科 准教授	情報工学	準L1ノルムに基づくNonnegative Matrix Factorization(QL1—NMF)アルゴリズムの改良と収束性の検証およびQL1—NMFを利用した環境電磁波の解析	アメリカ合衆国で開催される国際会議The 42nd IEEE International Conference on Acoustics, Speech and Signal Processing(ICASSP 2017)にて研究発表を行う。また同時に、電磁波等の時系列データの解析手法について情報収集および意見交換を行う
	21 広瀬 裕樹	愛知大学 法学部 教授	商法学(保険法)	責任保険契約の法的構造、とりわけ、責任保険契約における損害賠償請求者と被保険者との間の責任関係の法的位置づけ	責任関係にまつわる被保険者と保険者との間の争いについて情報を収集し、意見交換を行う。
	22 安田 文野	愛知県立芸術大学 大学院音楽研究科 博士後期課程 音楽専攻	音楽(器楽)	イベール作曲(祝典序曲 Overture de fe'te)をめぐる政治的背景フランスの作曲家、ジャック・イベールの(祝典序曲)が作曲された背景、並びにこの作品が演奏された3つの演奏会の政治的な思惑や演奏会に対する聴衆の反応などを調査することで、この作品の一般大衆への影響を明らかにするとともに、政治や世界情勢が作品や作曲家自身に与える影響の一端を探る。	紀元二千六百年奉祝楽曲発表演奏会に関する文書(フランス国立中央文書館所蔵)並びに1942年10月25日と1944年10月22日の演奏会に関する資料(フランス国立図書館所蔵)の調査を行い、演奏会が行われた背景を探る。また、音楽雑誌「L'Information musicale」(フランス国立図書館所蔵)から上記の3つの演奏会に対する記事などを調査し、この作品の一般市民への影響を明らかにする。
	23 柴崎 幸次	愛知県立芸術大学 美術学部 デザイン工芸科 デザイン専攻 教授	美術 デザイン	日本の和紙と照明に関する展覧会を、ドイツ(ミュンヘン)にて計画している	『日本の和紙と照明、その効果』 (Japanisches Washi— Papier und Washi— Leuchtobjekte Aspekte ihrer ästhetischen Wirkung)」と題し、平成30年までに、和紙の照明の展示、制作した和紙、金箔などを使用した作品などインスタレーション展示を実施する。 会場はミュンヘン市内、ザイドル・ヴィア(Nikolaiplatz 1b 80802 Munchen ミュンヘンの歴史的建造物を候補に準備を進めている。
	計	23			

2. 処務の概要

(1) 役員に関する事項

ア. 理事・監事

平成28年度末現在

役職名	氏名	就任年月日	現職
理事長	加藤時夫	平成10年 4月 1日	日東工業(株) 取締役会長
常務理事	中嶋正博	平成25年 6月 17日	日東工業(株) 経営管理本部長
理事	青木國雄	平成17年 9月 28日	名古屋大学 名誉教授
理事	川上 實	平成27年 9月 28日	愛知県立芸術大学 名誉教授
理事	後藤泰之	平成19年 9月 26日	愛知工業大学 学長
理事	清水哲太	平成19年 6月 28日	トヨタホーム(株) 相談役
理事	丸勢 進	平成 2年 4月 1日	名古屋大学 名誉教授
監事	岩越 稔	平成 8年 4月 1日	元東海エヌ・ティ・ティ・データ通信システムズ(株) 代表取締役社長
監事	原田 稔	平成22年 4月 1日	日東工業(株) 監査役

イ. 評議員

平成28年度末現在

役職名	氏名	就任年月日	現職
評議員	二瓶浩明	平成28年 6月 1日	愛知県立芸術大学 教授
評議員	黒野 透	平成23年 9月 29日	日東工業(株) 取締役
評議員	山田基成	平成28年 6月 1日	名古屋大学 教授
評議員	大塚道男	平成27年 10月 13日	愛知県立芸術大学 教授
評議員	齊藤英彦	平成17年 9月 28日	名古屋大学 名誉教授
評議員	下山 宏	平成26年 1月 17日	名城大学 教授
評議員	鈴木将文	平成24年 9月 14日	名古屋大学 教授
評議員	稲垣康善	平成26年 9月 29日	名古屋大学 名誉教授
評議員	三宅養三	平成25年 9月 20日	愛知医科大学 理事長

(2) 職員に関する事項

事務業務は日東工業株式会社へ業務委託

(3) 役員会等に関する事項

ア. 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成28年 5月17日	議案1 平成27年度事業報告、貸借対照表及び附属明細書、 正味財産増減計算書及び附属明細書、財産目録承認の件 議案2 評議員選定委員会へ評議員候補者推薦の件 報告 事業活動の状況報告	原案通り可決
平成28年 6月1日	議案1 代表理事(理事長) および業務執行理事(常務理事) 選任 の件	原案通り可決
平成28年 9月20日	議案1 平成28年度助成者決定の件について 報告 平成29年度事業計画について	原案通り可決
平成29年 2月24日	議案1 平成29年度事業計画書および収支予算書の件	原案通り可決

イ. 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 28 年 6 月 1 日	議案 1 平成 27 年度貸借対照表及び附属明細書、正味財産増減計算書及び附属明細書、財産目録承認の件 議案 2 理事 7 名、監事 2 名選任の件	原案通り可決
平成 28 年 9 月 20 日	議案 1 平成 28 年度助成者決定の件 議案 2 議事録署名人選出の件 報告 平成 29 年度事業計画について	原案通り可決

ウ. 評議員選定委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 28 年 6 月 1 日	議案 評議員選出の件	原案通り可決

(4) 契約に関する事項

該当なし

(5) その他の重要事項

該当なし